

# あきたからの米レター

## 平成23年産 水稻の作柄は「やや不良」

穂数「少ない」、1穂粒数「多い」、全粒数「やや少ない」

平成23年8月15現在  
東北農政局秋田農政事務所

東北農政局秋田農政事務所は8月15日現在、水稻の作柄を「やや不良」と発表しました。作柄を左右した要因は、穂数が「少なく」1穂粒数は「多い」ものの、全粒数が「やや少ない」ことから、登熟は「やや良」は見込めるが、総じて平年より「やや不良」になるとしている。

9月15日現在、イネはほとんどの地域で成熟期を迎えており、各JAの調査では「平年並み」～「やや不良」を見込んでいる。伸びていた草丈は、減数分裂期に葉色の急激な低下と一時低温が入ったことから、稈長の伸びが鈍化し倒伏の心配は少なくなっている。しかし、穂数が少なく1穂粒数が多いことは、登熟歩合と千粒重の低下が懸念され、品質・収量に影響を与えかねない。9月に入って相次いで台風12号・15号が本土を襲撃し、加えて秋雨前線を刺激して各地で豪雨による被害が発生した。刈り取りは積算気温を中心に籾や枝梗の黄化程度をみて総合的に判断して行い、ていねいな収穫作業と適正な乾燥作業で15%の玄米水分を厳守して出荷することが肝要である。

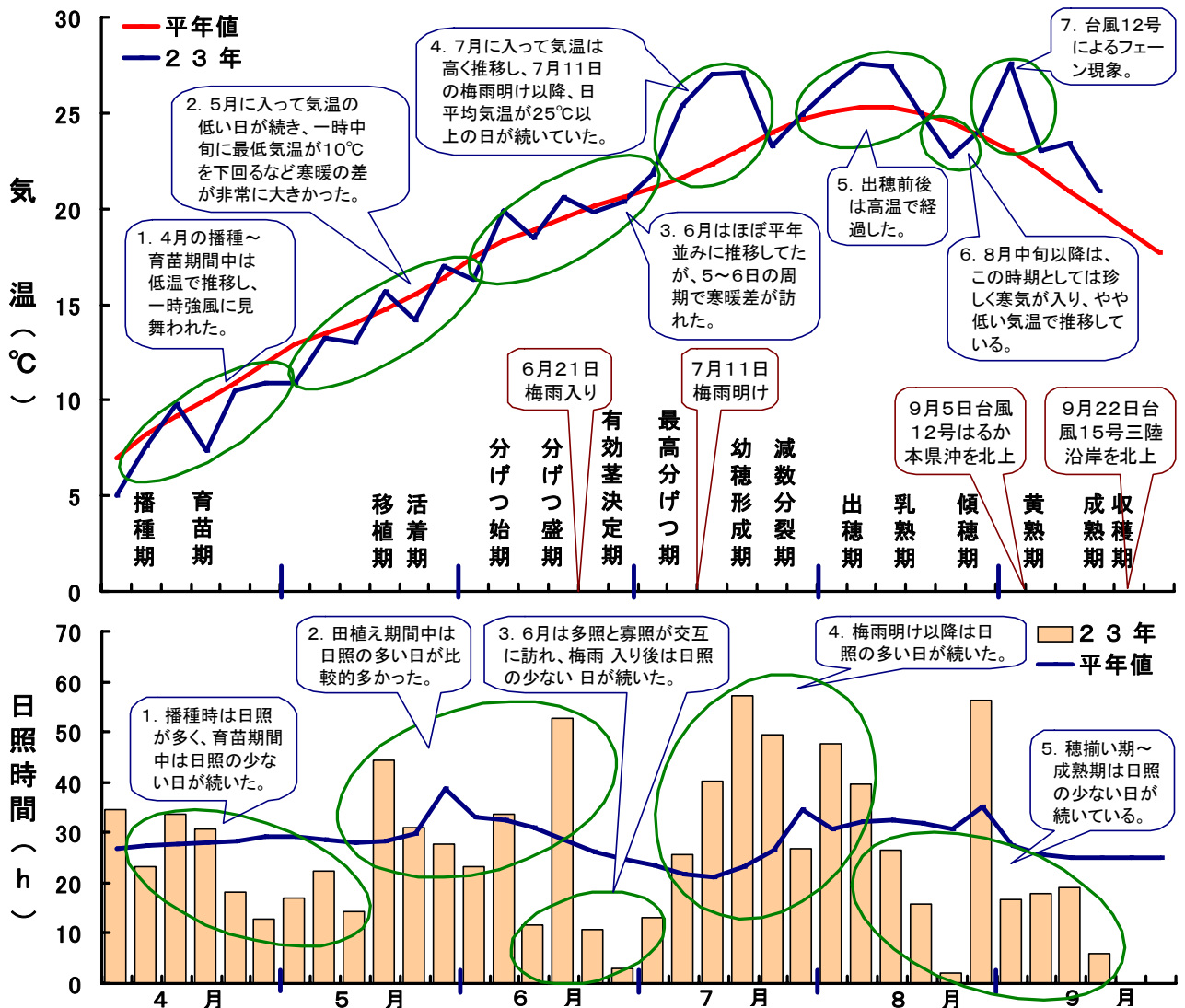


図. 稲作期間中の半月別日平均気温と日照時間の推移

秋田地方気象台

仙台管区気象台は8月26日に発表した3ヶ月予報では、9月の天気は数日の短い周期で変わり、平年より曇りや雨の日が多い見込みであると発表した。また、1ヶ月予報では9月の第3週と4週目は気温が平年並み又は高い確率がともに40%であると発表した。ここに来て日照時間が極端に少なく、気温の低い日が続いている。

### 東北地方の日平均気温の確率

仙台管区気象台

3ヶ月予報				1ヶ月予報			
8月26日発表				9月16日発表			
3ヶ月	20	40	40	1週目	20	40	40
9月	20	30	50	2週目	20	40	40
10月	20	40	40	3~4週	20	30	50
11月	30	30	40	凡例	低い	平年並み	高い



各地域振興局農林振興普及課定点ほ場の生育は、出穂期は8月5日(+1日)でほぼ平年並みになっており、遅れていた生育は回復傾向にあります。しかし、地域差、ほ場間差が大きく、1株の中でもバラツキが大きく、穂揃いが悪くなっており、9月15日の成熟期調査の結果では、稈長はほぼ平年並みの83.1cm(平年比100%)、穂長は18.1cm(同103%)でやや長くなっており、㎡当たり穂数は409本(同93%)とかなり少なくなっております。また、先(8月19日)に行われた調査では、1穂粒数は79.0粒(同107%)と多く、総粒数は31.7千粒/㎡(同98%)でやや少なくなっております。

各JAからの報告(9月15日現在)によりますと、出穂は全県単純平均で1日遅れ、生育状況はほとんどの地域で平年並~やや不良、登熟は平年並み~やや緩慢になっているとの報告になっております。

9月に入ってから台風や秋雨前線の影響により、各地で強雨による被害が発生しており、品質の低下が心配されます。倒伏したイネは別刈りするなど、仕分け乾燥を行って高品質米の生産に努めましょう。

### 各地域振興局農業振興普及課の定点調査

23. 8. 19及び9. 15

農 業 振 興 普 及 課	調 査 点 数	出穂期 (月日)	稈 長		穂 長		㎡当り穂数		1穂当たり粒数		㎡当り粒数	
			本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (cm)	平年比 (%)	本年 (本/㎡)	平年比 (%)	本年 (粒)	平年比 (%)	本年 (千粒/㎡)	平年比 (%)
鹿角	5	8. 6	81.9	101%	17.9	105%	458	97%	71.1	103%	32.3	98%
北秋田	9	8. 2	80.2	98%	17.2	101%	456	96%	66.4	95%	30.1	91%
山本	9	8. 6	82.7	98%	18.4	105%	386	87%	86.1	115%	33.4	101%
秋田	10	8. 3	85.9	102%	18.0	102%	401	94%	84.8	110%	33.1	100%
由利	3	8. 5	83.7	99%	18.3	101%	375	85%	81.6	110%	30.5	96%
仙北	10	8. 6	79.9	98%	18.1	102%	398	91%	77.7	105%	30.7	95%
平鹿	11	8. 6	86.1	104%	18.5	105%	407	94%	82.1	112%	33.4	105%
雄勝	8	8. 6	84.0	101%	18.6	106%	390	89%	78.9	106%	30.2	94%
県北	23	8. 5	81.5	98%	17.8	103%	429	93%	75.1	105%	31.9	97%
中央	13	8. 4	85.4	101%	18.1	101%	395	92%	84.1	109%	32.5	99%
県南	29	8. 6	83.4	101%	18.4	104%	399	92%	79.7	108%	31.6	99%
全県	65	8. 5	83.1	100%	18.1	103%	409	93%	79.0	107%	31.9	98%

## 表.各JAの生育状況

9月15日遠観調査及びJAからの聞き取り

JA名	生育ステージ	生育状況	登熟状況	JA名	生育ステージ	生育状況	登熟状況
かづの	糊熟期	平年並み	やや緩慢	新あきた	成熟期	やや不良	平年並み
あきた北	成熟期	やや不良	やや緩慢	大潟村CE公社	成熟期	平年並み	やや緩慢
鷹巣町	糊熟期	平年並み	やや緩慢	秋田しんせい	成熟期	やや不良	やや緩慢
あきた北央	糊熟期	平年並み	平年並み	秋田おぼこ	成熟期	やや不良	平年並み
あきた白神	糊熟期	平年並み	やや緩慢	秋田ふるさと	糊熟期	やや不良	平年並み
秋田やまもと	糊熟期	平年並み	やや緩慢	おものがわ	成熟期	平年並み	平年並み
あきた湖東	成熟期	平年並み	平年並み	こまち	糊熟期	やや不良	やや緩慢
秋田みなみ	成熟期	平年並み	平年並み	うご	成熟期	平年並み	平年並み

## 出穂は平年並み

穂数少なく、1穂粒数多い、総粒数やや少ない  
カメムシの被害防止と高品質米の乾燥・調製を



秋田農政事務所は8月15日現在、水稻の作柄を「やや不良」と発表しました。作柄を左右した要因は、穂数が「少なく」、1穂粒数は「多い」ものの、全粒数が「やや少ない」こと、登熟は「やや良」と見込めるものの、総じて平年より「やや不良」になる見込みであるとしております。

農業試験場の豊凶考照試験の分けつの発生消長と穂への有効化のデータを見ますと、分けつの発生は1次分けつの3号が平年より少なく、穂数不足の要因になっております。また、7号分けつが平年より多く発生し、今まで発生しませんでした8号分けつが確認されております。

発生した3号と7号分けつはほとんどが穂になっておりますが、7号分けつが穂になったことが本年の特徴になっております。3号分けつからの穂は1穂粒数が多く着生しますが、7号分けつから発生した穂の1穂粒数は、他の穂に比較して着粒数が少ないので、総粒数の不足が心配されます。

出穂10日後の粒の大きさは、粒殻長が7.56mm(平年差106%)、粒幅長が3.50(同104%)と平年に比較して大きくなっております。

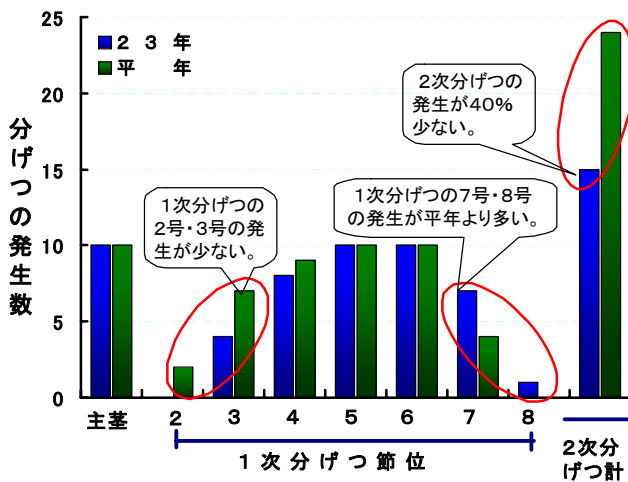


図.次位別分けつの発生

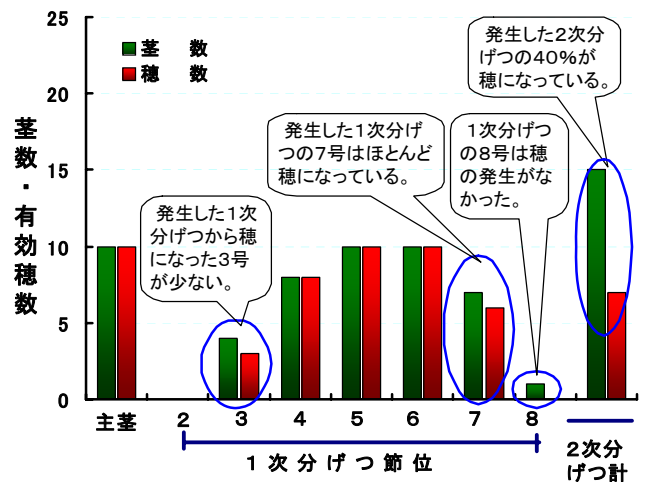


図.次位別穂数の発生数

# 刈り取り時期は平年並みの予想

## 刈り取りは籾の黄化度90%を目安に！！

**籾殻は平年より大きい**

項目	試験年次		平年差 比(%)
	本年	平年	
出穂期(月・日)	7.31	8.1	-1
籾殻長(mm)	7.56	7.13	106
籾殻幅(mm)	3.50	3.38	104
1株平均穂数	20.1	20.2	99
1穂平均籾数	72.7	67.2	108
1株当たり籾数	1,461	1,358	108

注: 平年は平成12年~22年の平均値

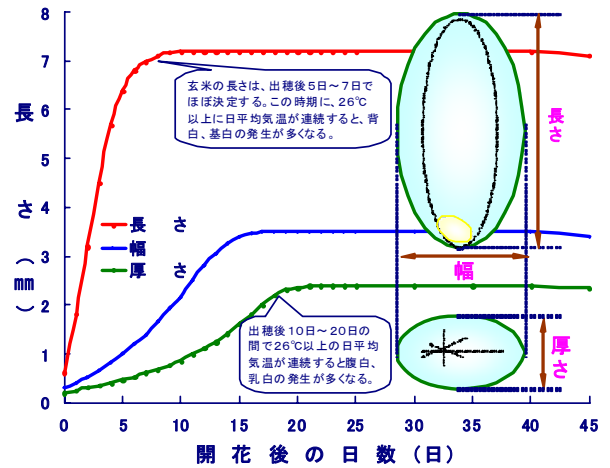


図. 玄米の外形の発達

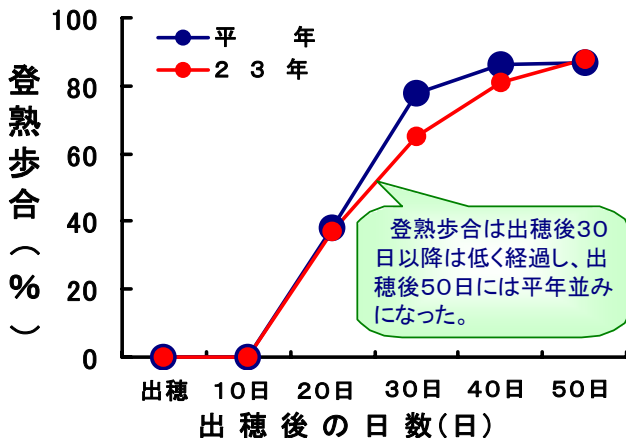


図. 登熟歩合の推移

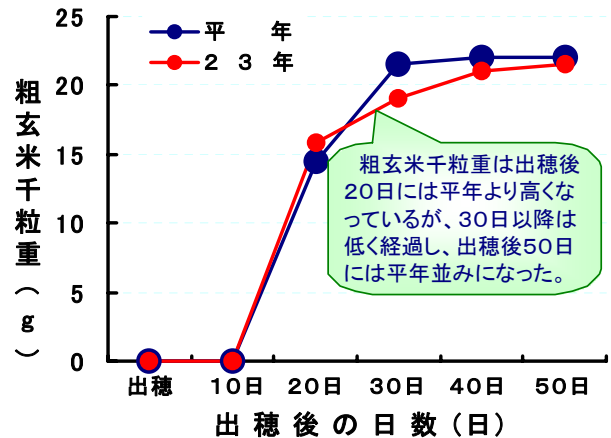


図. 粗玄米千粒重の推移

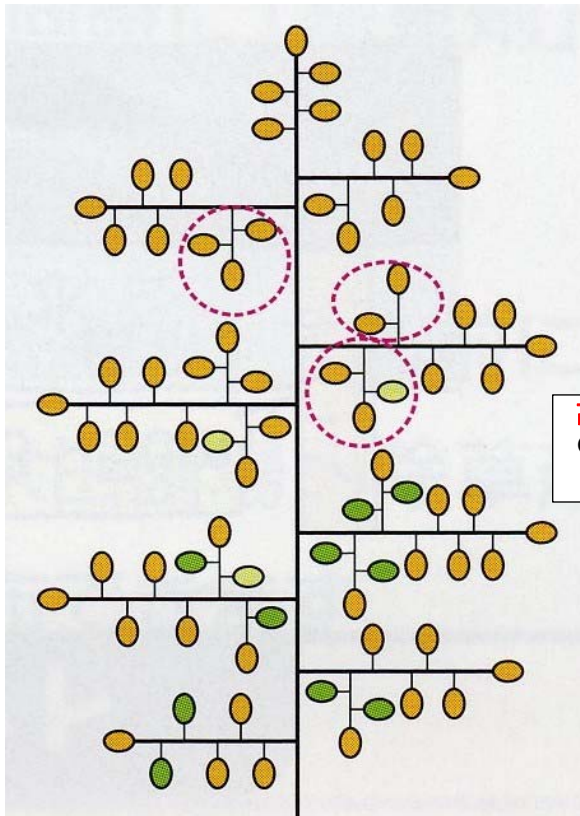
### 刈り取りに向けた技術対策

- ◎ 刈り取り時期の診断 :
  - 品種別、ほ場別に刈り取り時期を正しく診断し適期刈り取りに努める。
  - 積算気温、籾の黄化程度90%など総合的に刈り取り時期を判断する。
- ◎ 倒伏ほ場の刈り取り :
  - 停滞水の速やかな排除に努める。
  - 穂発芽による品質低下が懸念される場合は速やかに収穫作業に入る。
  - 追い刈りや横刈りなどにより刈り取り精度の向上に努める。
  - 被害籾は仕分けして乾燥調製を行う。
- ◎ 高品質米生産のため :
  - 高水分籾の刈り取りは絶対避ける。
  - 籾水分の測定は、できる限りサンプル数を多くして行う。
  - 二段乾燥で過乾燥の防止に努める。
  - 網目は1.90mmで行い、整粒歩合80%以上に仕上げる。
- ◎ 農作業の事故防止 :
  - 無理のない作業計画を立てる。
  - 作業前には体調を万全に整え、作業に適した服装で作業を行う。



各地域の出穂後10日間毎の積算気温・日照時間

地域	出穂期(月/日)		推定出穂日(月/日)	出穂翌日から10日間				出穂11日~20日				出穂21日~30日				出穂31日~40日			
	本年	平年差		積算気温(°C)		日照時間		積算気温(°C)		日照時間		積算気温(°C)		日照時間		積算気温(°C)		日照時間	
				本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比	本年	平年比
鹿角	8/6	+2	8/6	254	108	72	120	213	94	14	25	233	109	68	137	206	105	25	57
			8/10	236	102	43	73	211	95	50	94	232	113	39	82	203	111	19	43
鷹巣	8/6	+1	8/6	264	110	63	106	234	100	15	26	242	109	65	125	216	108	22	48
			8/10	248	104	37	62	220	96	48	87	241	114	35	71	211	112	20	44
能代	8/6	+2	8/6	269	109	69	105	231	96	23	36	248	109	71	122	224	107	30	57
			8/10	256	105	45	68	225	96	60	97	250	114	35	63	216	109	28	55
秋田	8/6	+1	8/6	275	109	66	98	238	96	18	26	257	109	73	97	233	108	28	37
			8/10	262	104	42	62	234	97	57	78	256	112	36	48	228	111	25	34
本荘	8/6	±0	8/6	264	107	71	107	234	97	18	28	248	108	66	113	203	96	33	65
			8/10	253	102	43	66	227	88	54	88	245	111	37	68	235	117	30	63
大曲	8/6	+2	8/6	254	108	68	108	222	97	17	28	247	109	60	111	222	107	35	76
			8/10	240	103	30	55	221	99	50	88	241	110	36	72	245	115	26	59
横手	8/6	+1	8/6	272	109	71	117	234	96	18	31	253	109	63	117	228	107	42	91
			8/10	256	103	42	70	232	97	54	97	248	111	40	80	230	115	35	80
湯沢	8/6	±0	8/6	263	108	67	110	227	96	16	27	242	112	63	122	221	107	44	97
			8/10	249	103	40	67	222	96	54	98	239	110	43	88	224	115	32	72



各地域振興局農業振興普及課の定点調査「あきたこまち」の出穂期は、ほぼ平年並みとなっております。表は各地域の出穂期が8月5日と10日に収穫した場合、出穂期翌日から10日後毎の積算気温と日照時間を示したものです。積算気温は各地域及び各期間ともに平年並み~やや高めに経過しております。しかし、積算日照時間は全県的に平年に比較して少ない期間が多く、とくに、出穂が遅れた場合にその傾向が顕著に表れている。

**高品質米生産には**  
 ●刈り取り時期は籾・枝梗の黄化度90%  
 ○内の2次枝梗が黄化した時

地域	出穂期		推定出穂日	積算気温(月・日)	
	本年	平年差		950°C	1050°C
鹿角	8月6日	±0	8月5日	9月16日	9月22日
			8月10日	9月24日	10月1日
鷹巣	8月2日	-2	8月5日	9月15日	9月19日
			8月10日	9月22日	9月28日
能代	8月6日	+2	8月5日	9月13日	9月18日
			8月10日	9月20日	9月26日
秋田	8月3日	±0	8月5日	9月12日	9月16日
			8月10日	9月18日	9月24日
本荘	8月5日	±0	8月5日	9月14日	9月18日
			8月10日	9月19日	9月25日
大曲	8月5日	+2	8月5日	9月14日	9月19日
			8月10日	9月21日	9月27日
横手	8月6日	+1	8月5日	9月14日	9月19日
			8月10日	9月20日	9月26日
湯沢	8月6日	±0	8月5日	9月15日	9月20日
			8月10日	9月22日	9月28日

注: 出穂翌日から9月20日まで、以降は平年値

「あきたこまち」の刈り取り適期は、出穂後の積算気温が950°C~1,050°Cが目安です。各地域の出穂期から出穂以降950°Cと1,050°Cに達する日を推定(9月20日以降は平年値を使用)した結果は表の通りです。すでに950°Cに達している地点が多くなっております。今年は日照時間が少ないことから、実際の刈り取りに当たっては、積算気温を基に、籾の熟色と枝梗の黄化度90%を目安にするなど、総合的に判断して決めましょう。

## 斑点米カメムシ類の混入防止と高品質米への調製を！！



今年の斑点米カメムシ類は平年より多く発生しております。これは梅雨明けが異常に早く、雨が少なく高温で経過したことから、カメムシの生息に適した気象であったことによるものです。

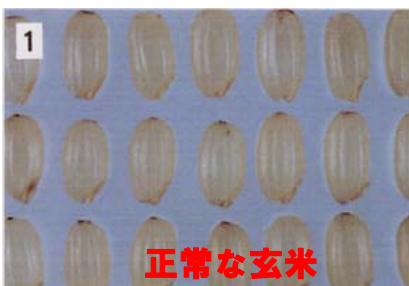
これまで秋田県病害虫防除所は8月10日と23日の2回にわたって注意報を発令して防除の呼びかけを行ってきました。しかし、一部では防除が完全に行き届かなく、出荷・検査時点で落等した地域も見受けられます。乾燥・粉すり・選別には十分気をつけて高品質米の調製に心がけましょう。



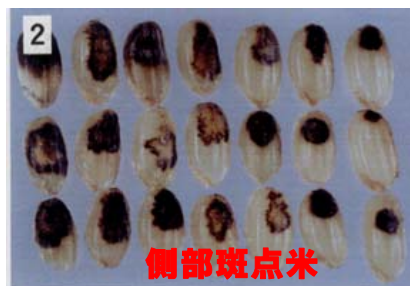
アカヒゲホソミドリカメ



アカスジカメ



正常な玄米



側部斑点米



頂部斑点米

### あきたecoraisの拡大に向けた取り組み

「あきたecorais」とは農薬の使用成分回数を慣行栽培よりも5割(10回)以下に抑えた減農薬栽培米のことです。

今年度の現地実証ほの実績では、農薬費は約35%削減されました。



あきたecoらいすとは、減農薬栽培米を秋田米のスタンダードとして早期に定着させるための米づくり運動と、これにより以下で定義される減農薬栽培された米のことを言います。減農薬栽培米とは、慣行栽培と比較して農薬の使用成分回数を5割（10回）以下に抑えた米であり、減農薬栽培で生産されたこだわり米や特別栽培米、有機米もあきたecoらいすに含みます。

あきたecoらいすは、「環境に配慮した生産」、「低コスト省力型生産」、「販売を意識した生産」の3つの生産拡大をテーマとしており、生産技術の普及拡大のみならず、秋田米の販売環境を生産者側から提案・改善していこうとする取り組みです。

JA全農あきたでは、商標登録したロゴマークを表示することにより、区分販売を行う予定です。また、認証については、有機栽培、特別栽培が現行制度（有機栽培は認証機関による認証、特別栽培では県認証）での認証とし、減農薬栽培米とこだわり米については集荷団体の独自認証とすることとしております。

## 秋田県のコメセシウム濃度検査実施

### 収穫前・収穫後ともに旧市町村すべて”未検出”

秋田県では、収穫後の県産米の放射性物質（本調査）の前に、県産米の安全性をいち早く確認するため、県内3カ所（県北・中央・県南ブロック単位に1カ所ずつ）において、県が独自で収穫前調査を行った。その結果、3カ所において未検出であると発表した。

また、収穫後の県産米について、安全性の確認と出荷制限の要否を判定するため、県内69カ所（旧市町村単位）において、収穫後調査を実施しました。すべての箇所において放射性セシウムは未検出であると発表し、県内全25市町村において、出荷自粛を解除した。



収穫前県産米

### セシウム調査始まる

秋田市 美郷町 きょうろ 結果判明

県産米の放射性セシウム調査と美郷町上深井で、県職員が地元農家の水田が31日始まり、秋田市金員が収穫を受け、黄色に色づいたイネを採取。成熟期に入るイネ約1500株を1枚を1枚をかり取り、県健康環境農業試験場で乾燥、乾燥させた後、もみ攪りして玄米にしてセンター（秋田）で検査し、同日中に結果が判明する見込み。水田を所有する農家男性（75）は「今月半ばから稲刈りに入る予定で、「セシウムが検出されないことを願う。早く結果をはっきりさせて、消費のため刈り取りに安心して食べてもらいたかったイネを整理する農職員。収穫前調査は、いち早く県産米の安全性を確認しよう」と話した。

秋田さきがけ  
平成23年9月1日

（梅川正城）

県北・県央・県南の3カ所では、県が独自に実施。5日には北秋田市上杉で県北分のイネの採取を行う。旧市町村を対象にした収穫後の本調査は、県央を皮切りに10日ごろから行う予定。

## 県内全市町村 セシウムなし

### 県産新米、調査終了

県は20日、旧69市町村単位で不検出だった。県産米の調査は8月4日、で行っていた県産米の放射性セシウム調査が終了し、県内全域でセシウムは検出されなかったと発表した。現行の全25市町村で、新米が出荷できるようになった。最後となる小坂町産のあきたこまちの検査は20日行われ、セシウムは未検出だった。

「JA全農あきたの福岡典昭本部長は「セシウムが検出されなかったのは思っていなかったが、検査したことで県内外に安全性を強くアピールできる。農家の期待に応えられるよう、コメの不足感があるうちに早めに販売したい」と話した。

農林水産省によると、20日までに本調査が終了したのは本県のほか山形、千葉、神奈川県、新潟、静岡の5県。千葉で国の暫定基準値（1kg当たり500Bq）を下回るセシウムを検出したほかは不検出で、6県ともコメを出荷できる。

（梅川正城）

秋田さきがけ平成23年9月21日

【分析方法】：ゲルマニウム半導体検出器を用いた核種分析法による。  
 【定量下限値】：放射性セシウム134、放射性セシウム137ともに20ベクレル/kg  
 【検査機関】：秋田県健康環境センター  
 注：「未検出」とは、放射性物質が存在しない、又は定量限界値以下を示している。



出来秋が来た。夏が終わりに近づく頃は、新米を楽しみに待つ季節である。

しかし、今年の秋はいつもの秋とは違う。春先から懸念されていたことがやはり持ち上がってきた。収穫を迎えて、コメの安全確保は「コメどころ秋田」にとって重大な問題である。

秋田県では9月1日・5日、収穫前のコメの放射性物質を調べた結果、「放射性セシウムは検出されなかった」と発表した。採取したコメはいずれも「あきたこまち」で、秋田県農業試験場で脱穀、乾燥したのち、粳すり・調製をおこない、秋田県健康環境センターでゲルマニウム半導体検出器を使い検査を実施した。国の方針に沿って、検出可能な下限値を1kg当たり20ベクレルとして分析を実施し、その結果、秋田県は「3箇所とも検出されなかった」と発表した。

さらに、収穫後の本検査を旧市町村単位(69市町村)で、農家が乾燥・調製したコメの一部を採取し、収穫前調査と同様に検査を実施することとした。秋田県では「主食用のコメきめ細かな範囲で安全を確認することが必要である」として、農家の出荷に遅れが出ないように速やかに調査を実施することとした。9月9日～20日にかけてコメを採取して調べ、その結果は「県内全域で放射性セシウムは検出されなかった」と発表した。現行の全25市町村すべてで出荷が可能になった。

県内全域で放射性セシウムが未検出となったことから、県内外に安全性を強くアピール出来るようになった。これで、「コメの不足感があるうちに有利販売を進める」ことが可能になり、農家の期待に応えられるようになった。加えて、関係機関・団体が一体となり、「秋田米」の安全性と風評被害が出ないように、消費者や流通業者の不安解消へ万全を期す必要を痛感している。

こうした中、刈り取りを間近にして台風15号と秋雨前線による強雨が降り続き、農家は雨空を見上げながら、収穫の遅れによる品質低下を心配する場面もあった。イネの出穂は平年並みであったことから、刈り取りもほぼ平年並みと予想された。積算気温ではすでに刈り取りの950℃を過ぎていたが、日照時間が平年より大幅に少ないことから、適期刈り取りの判断が難しくなっている。強雨が続いた割には倒伏が少ないことから、秋田農政事務所が8月30日に発表した作柄概況は「やや不良」のとおり、本当に収量は少ないのか収穫が待たれる。

さいわい、昨年のような品質低下は免れたものの、いかなる気象条件に遭遇しようとも、品質の良い美味しいコメの生産をお願いしたいものである……。斑点米カメムシの異常発生による被害も懸念され、最後の収穫・乾燥調整には万全を期して、良い出来秋を迎えたいものである。

こだま

全国農業協同組合連合会 秋田県本部  
〒:010-8558 秋田市八橋南2-10-16  
URL: <http://WWW.ak.zennoh.or.jp/>

次回の発行は10月15日頃の前定

資料の使用に当たっては米穀部の許可を得る

JA全農あきた米穀部  
TEL:018-864-2470  
FAX:018-864-2456